

はじめての パソコン農業簿記

改訂第9版

都道府県農業委員会ネットワーク機構
都道府県農業会議

全国農業委員会ネットワーク機構
全国農業会議所

はじめに

パソコンによる簿記記帳も本格的に始まってすでに30年以上になり、すでに多くの農家の皆さんが日常業務の一つとしてパソコンを利用した簿記記帳に取り組んでいます。

簿記記帳を行う目的の一つは、事業を営んでいることによる税務申告にあります。パソコン簿記が始まった当初は、複式簿記であるパソコン簿記を行っても、手間をかけずにきちんと記録が行え、決算書が作成できるだけで、青色申告であることによる基本的な税務上のメリットしかありませんでした。しかし、平成5年からは、青色申告を選択し、複式で損益計算書と貸借対照表を作成すると、青色申告特別控除が増えることにより（現在は55万円 電子申告することで65万円）大きなメリットが得られるようになってきました。こうしたメリットがパソコン簿記の普及の大きな力となっています。

パソコン簿記を行うメリットは、こうした直接的なメリットだけでなく、本来のメリットは、経営の現状を正確に知ることができるところにあります。損益計算書と貸借対照表は、1年間にわたる経営の通信簿でもあり、来年度以降の将来の経営を考えていく基礎情報ともなるものです。

確かに、経営結果は毎年違ってきます。気候変動の大きい現在、作物の生育も当初思っていたように生育をしてくれない場合もたびたびです。また、経済のグローバル化に伴い、輸入農作物との価格競争や大型小売店主導による価格形成など厳しい経営になっています。こうした中で、作型の変更や作物・品種の変更、また販売方法の変更により、変化に対応しようとする農家の皆さんが少なくないのですが、その時、その時の対処ではなかなか思ったような結果が得られないのが現状のようです。

パソコン簿記による損益計算書や貸借対照表、また可能であれば作業時間の記録など（物的記録）を合わせて経営の現状を分析してみると、経営の問題点や特徴などが分かってきます。こうした分析を通じて得られた経営の弱点を解決する経営の変更を行っていくことが大事ではないかと思っています。数年でははっきりした違いは出づらいかも知れませんが、長く続けていると、その時その時の対処とは違った結果がもたらされるものと思われれます。

こうした、経営の継続性を支える基礎となるものが簿記記帳の結果といえます。そういう意味でますます大事になっているのが簿記記帳です。

本書では、複式簿記の基礎からパソコン簿記まで、個人でも学べるように編集を行いました。ぜひ、本書を活用し、経営の未来を作る一助にいただければと願っています。

農業情報化コンサルタント 農学博士 滝岸 誠一

農業委員会組織はこれまで、複式簿記や青色申告、家族経営協定の普及・定着などを通じて、農業経営者の経営管理能力の向上や農業経営の法人化に向けた相談活動・研修会など、経営改善の支援に取り組んでいます。

本書は、神奈川県を中心に簿記講習会の講師をされている農業情報化コンサルタント・滝岸誠一氏に著述の労を賜ったもので、パソコンでの簿記の記帳を考えている農業経営者や都道府県農業会議などが開催しているパソコン簿記講習会のテキストとして活用できる一冊です。

手書きの複式簿記に比べパソコン農業簿記は、日付、摘要、金額、相手勘定科目を一度入力するだけで、元帳への転記から試算表、決算書、青色申告書まで自動でできる利便性があります。しかし、決算書がいくらきれいに作成できたとしても、数字が読めなければ何の意味もありません。簿記は、税務申告のためだけに行うのではなく、記帳の結果から得られる貸借対照表や損益計算書などの財務諸表により自己の経営を分析・把握して、その問題点や発展のカギを見つけることが第一の目的だからです。

したがって、簿記講習会では簿記の原理原則をしっかり理解した上でパソコン簿記講習を行うというスタンスを取っています。本書でも、前半は複式簿記の原理原則を、後半はパソコンでの簿記記帳を学ぶ構成になっています。

本書が、認定農業者をはじめ多くの農業者の実務手引書として活用されることを願ってやみません。

末尾になりますが、本書に体験版ソフトと多くの画像データをご提供いただき、わかりやすく充実した内容になるようご協力いただきましたソリマチ株式会社様にお礼を申し上げます。

都道府県農業委員会ネットワーク機構
都道府県農業会議
全国農業委員会ネットワーク機構
全国農業会議所

第1章 複式簿記記帳を行うことは

1-1	複式簿記記帳に挑戦	6
1-2	貸借対照表プラスで65万円控除	7
1-3	複式簿記をパソコンで	8
1-4	本書の説明順序と利用法	9

第2章 複式簿記の基本

2-1	取引とは	12
2-2	複式での取引記帳	13
2-3	勘定科目とは	14
2-4	勘定科目(資産・負債・資本)	16
2-5	勘定科目(売上・経費)	17
2-6	勘定科目(営業外損益)	18
2-7	仕訳(伝票に勘定科目で記入)	19
2-8	財産調べ(期首残高)	20
2-9	複式簿記記帳の原理1	22
2-10	元帳を作成する1	24
2-11	元帳を作成する2	26
2-12	試算表を作成する	28
2-13	複式簿記記帳の原理2	30
2-14	精算表を作成する	32
2-15	貸借対照表と損益計算書	33
2-16	基本的な流れは以上です	34

第3章 伝票による複式簿記の演習

3-1	現金で購入した場合	36
3-2	現金が入ってきた場合	37
3-3	預金から出金した場合	38
3-4	預金に入金した場合	39
3-5	仕事のお金を家庭へ(家庭へ)	40
3-6	家庭のお金を仕事へ(家庭から)	42
3-7	売掛取引(すぐに入金しない取引)	44
3-8	買掛取引(すぐに入金しない取引)	46
3-9	借入と返済	48
3-10	専従者給与の支払(源泉税)	49
3-11	10万円以上の資材等を購入した場合	50
3-12	決算修正(減価償却)	52
3-13	決算修正(資材の棚卸)	54
3-14	決算修正(農産物の棚卸)	56
3-15	決算修正(家計費のあん分)	58
3-16	決算修正(家事消費)	59
3-17	決算修正(育成資産の振替)	60
3-18	決算修正(保険積立金)	61
3-19	元帳への転記	62
3-20	試算表の作成	64
3-21	精算表の作成	65

第4章 パソコン複式簿記の基本

4-1	ソフトとハード	68
4-2	パソコンに電源を入れる	69
4-3	フォルダーについて	70
4-4	ウィンドウズ(Windows)の共通部品	71
4-5	キーボードの操作	72
4-6	マウスの操作	73
4-7	日本語の入力	74
4-8	簿記ソフトを起動	76
4-9	終了時には忘れずにバックアップ	77
4-10	簿記ソフトの画面	78
4-11	簿記ソフトのメニュー画面	79
4-12	メニューと機能 データ管理と初期	80
4-13	メニューと機能 日常と決算	81
4-14	メニューと機能 申告と繰越処理	82
4-15	メニューと機能 資産台帳、集計分析、利用設定	83
4-16	パソコン簿記の流れ	84
4-17	入力を始める前に データの選択について	85

4-18	入力を始める前に データバックアップの方法	86
4-19	入力を始める前に データリストアの方法	87

第5章 パソコン複式簿記の演習 1 (毎日の入力)

5-1	データ(帳面)の選択	90
5-2	基本情報の設定	91
5-3	部門の設定	92
5-4	青色申告科目の設定	93
5-5	勘定科目の設定 追加・削除と青申科目対応	94
5-6	勘定科目の設定 補助科目の設定	95
5-7	勘定科目の設定 期首残高の入力	96
5-8	仕訳辞書の確認	97
5-9	備考文の確認	98
5-10	入力中の摘要文・備考文登録	99
5-11	入力の練習1 簡易振替伝票入力	100
5-12	入力の練習2 振替伝票入力	102
5-13	入力の練習3 出納帳入力	104
5-14	入力の練習4 らくらく仕訳入力	106
5-15	入力の練習5 元帳と試算表の確認	107
5-16	入力の練習6 仕訳日記帳の確認	108
5-17	入力の練習7 農業日記入力	109
5-18	入力の練習8 決算書を作る	110
5-19	入力の練習9 経営基盤強化準備金明細書	111
5-20	現金の入・出金の演習	112
5-21	預金の入・出金の演習	114
5-22	事業主貸(家庭へ←仕事から)の演習	116
5-23	事業主借(仕事へ←家庭から)の演習	117
5-24	売掛処理(売り立て書)の演習	118
5-25	共販の精算と酪農の売掛	120
5-26	買掛処理(請求明細)の演習	121
5-27	借入と返済の演習	122
5-28	専従者給与の演習	124
5-29	10万円以上の資材を購入	125
5-30	減価償却資産に登録	126
5-31	減価償却資産のその他機能	128

第6章 パソコン複式簿記の演習 2 (決算修正の入力)

6-1	決算修正の取引 決算修正の内容	130
6-2	決算修正の取引 日常の入力内容を確認	131
6-3	決算修正の取引 減価償却費の計上	132
6-4	決算修正の取引 農産物・資材の棚卸(簡易)	133
6-5	決算修正の取引 農産物の棚卸を計上(詳細)	134
6-6	決算修正の取引 資材の棚卸を計上(詳細)	135
6-7	決算修正の取引 家計費分のあん分	136
6-8	決算修正の取引 家事消費分を計上	137
6-9	決算修正の取引 育成資産分を計上	138
6-10	決算修正の取引 共済積立金分の振替	140
6-11	決算書作成へ 共通部門の部門割合設定	141
6-12	決算書作成へ 決算書を印刷1	142
6-13	決算書作成へ 決算書を印刷2	143
6-14	決算修正の取引 消費税の設定と申告書の作成	145
6-15	インボイス制度の概要	150
6-16	売り手側と買い手側での処理方法	151
6-17	インボイス制度の特例	156
6-18	電子申告をしてみよう	159
6-19	自分の取引を入力しよう	161

Appendix 体験版の使い方およびローマ字表など(不動産の設定と入力)

ソリマチ農業簿記12 体験版と全国農業会議所版データシートセットアップ	164
不動産入力のための設定と入力方法	167
本書の使い方と研修会の開催日程例	172
入力用ローマ字表	173

第1章



複式簿記記帳を 行うことは

なぜ、複式簿記記帳を学習するのでしょうか。複式簿記記帳を行うとその年の売上集計と経費の集計（損益計算書 P/L）から利益が分かるだけでなく、仕事の財布の状態をきちんと集計（貸借対照表 B/S）できることにより、経営の現状の把握も行えるようになります。さらに、仕事の財布の状態を決算書に記入すると税務申告の際に条件が付きますが青色申告特別控除が65万円受けられるようになります。



複式簿記で記帳を行うと、損益計算書と貸借対照表が作成されます。経営を監視する大事な集計です。

複式簿記の方式で毎日の取引を記帳し、決まった手順で処理をしていくと、「損益計算書」と「貸借対照表」の2つの集計が得られます。

「損益計算書」と「貸借対照表」は、お金の面から経営の現状を知ることのできる集計表です。「損益計算書」では会計期間（個人の青色申告では1月1日～12月31日）の売上と経費そして利益の様子が、「貸借対照表」では会計期間終了時ばかりでなく、その時々時点での仕事のお金の状態が分かります。

収益が十分に上がってしかも安定的な経営を行っているかどうかがこの2つの集計から判断できるようになります。

本書では、複式での記帳方法から「貸借対照表」「損益計算書」の作成とパソコンで行う複式記帳の方法を順序を追いながら解説しています。また、実際に複式記帳の練習が行えるように豊富な演習例題を付けてあります。

貸借対照表

(ある時点での仕事の財布の内容をあらわします)



損益計算書

(ある期間の作物を作り、売って得た利益・損失をあらわします)



簡易帳簿の場合

青色税務申告を容易にするために、各地で簡易帳簿が作成され利用されています。毎日の売上と経費の出費を記録しておけば、合計を計算するだけで、青色申告書の1頁目に当たる損益計算書が作成できてしまうとても便利な帳簿です。しかしながら、単式簿記ですので貸借対照表が作成できないので、55万円（電子申告することで65万円）の青色申告特別控除を受けることができません。10万円のみ控除となります。

また、経営を考える十分な集計が得られません。簡易帳簿から複式簿記へ是非、チャレンジしてください。

1月							
日付	収入		支出				
	農業	農外	種苗費	肥料費	農業費	諸材料費	荷造運賃
合計							

一般的な簡易帳簿の形式